郷土史年表

旧石器時代　縄文時代　弥生時代　古墳時代
奈良時代　平安時代　鎌倉時代　室町時代
江戸時代　明治時代　大正時代　昭和時代
平成時代

時代	年　代	郷土に関する事象
旧石器	前期　50万年前	
	中期	
	晩期　B.C　10,000	七渡瀬Ⅱ遺跡で旧石器時代のチャートが出土。
縄文	早期　B.C　10,000	
	前期　B.C　8,000	
	中期　B.C　5,000	
	後期　B.C　2,500	長田郷遺跡（磨消縄文・鉢、沈線文・鉢、石皿・叩石、石鏃）。七渡瀬Ⅱ遺跡。
	晩期　B.C　1,000	七渡瀬Ⅰ遺跡（石器、土器）。長田郷遺跡（刻目突帯文土器、石斧、）。 七渡瀬Ⅱ遺跡（土器）。槙ケ曽根遺跡（石斧）。
弥生	草創期　B.C　1,000	
	早期　B.C　700	七渡瀬Ⅰ遺跡（土器）。
	中期　B.C　400	七渡瀬Ⅰ遺跡（石斧、土器）。寺田前遺跡（石斧）。ナゴダ遺跡（石斧）。城ノ前遺跡（土錘）。
	後期　100	長田郷遺跡（甕・壺などの土器）、七渡瀬Ⅱ遺跡。
	晩期　200	長田郷遺跡、七渡瀬Ⅰ遺跡。七渡瀬Ⅱ遺跡（甕・壺・鉢・高杯）。
古墳	前期　300～350	千年比丘一号墳が造営される（墳丘に砥石を配置）。壺・鼓形器台が出土。 長田郷遺跡（甕）。七渡瀬Ⅱ遺跡の竪穴式住居跡。
	中期　400	七渡瀬Ⅱ遺跡（土器）。
	後期　500	七渡瀬Ⅱ遺跡（土器）。
飛鳥	大化　2年　646	大化の改新。七渡瀬Ⅱ遺跡（住居址）。城ノ前遺跡（土錘）。
	大宝　元年　701	「大宝律令」で、「公地公民」の原則にそって宮司の機構によって国政を運用する国家体制が整った。
奈良	養老　7年　723	「三世一身」の法で、公民に開墾を奨励、輸租田は三代の間は私有化させる。
	神亀　2年　725	石見国境として波佐の地に牓示を定む。
	神亀　2年　725	大井谷宮地谷へ大歳神社を勧請。神祇官従五位下河野監物が派遣される。
	天平　15年　743	「墾田永年私財法」新たに開墾した墾田は永久に私財として認める。荘園化が始まる。
平安	貞観　13年　871	「三代実録」の記述で、「従五位下　大歳社　従五位上」に格付けされる。
	承平年間　931－	大井谷の地に恵日山本覚寺を営造する。 大井谷八幡岩に宇佐八幡宮より勧請
	平安　末期　1165	波佐一本松城築城において、鬼門よけのため大歳社を大井谷の宮地谷より現在地に遷宮する。神祇官役宅は細田に移す（官道が敷設される）。
	永萬　元年　1165	大歳社「黒金」が神祇官年貢注文となる。（永萬文書）
	寿永　2年　1183	荻野氏、大井谷の八幡岩在来の八幡宮を神託により高天原に移す。
	元暦　元年　1184	佐々木四郎左衛門慰高綱、平家方の河野城主(波佐一本松城)を芸州より追討。
	元暦　元年　1184	11月25日付、源頼朝御下文で**長田別府**を認める。
	元暦　2年　1185	佐々木高綱、八幡宮を現在地常磐山に遷宮し、定紋は、四ツ目結とし、佐々木祖霊神も合祀する。高綱は、武具を奉納し、仏門へ出家する。
鎌倉	文治　元年　1185	石見の守護職は、佐々木定綱となる。長田郷遺跡（青磁・蓮弁紋出土）
	建仁　3年　1203	益田兼高が石見守護職となる。
	寛喜　3年　1229	三隅兼信、三隅家を立家して木杵・長安の地頭となる。
	嘉禎　4年　1238	北条泰時は、坂上明胤が父遺領であった「**長田保**」の相続を認めた。
	仁治　3年　1242	2月26日、三隅兼信が永安兼祐に永安別府を委譲したとき、東境として「はさなかをのふたつまつ」とある。（吉川文書）
	正安　2年　1300	普明山に天満宮造営される。
	延慶　元年　1308	三隅入道来り、花城を攻める。
	正和　元年　1312	佐々木刑部、横小路にて地頭。

時代	年　代	郷 土 に 関 す る 事 象
鎌倉	嘉暦 元年 1326	12月10日、石見永安別府以下地頭職分文（吉川文書）に、永安別府の四至の内「東**波佐**堺他領」「南**波佐**堺他領」とある。
南北朝	元弘 3年 1333	後醍醐天皇隠岐を脱し、伯耆に還幸。三隅氏勤皇。
	弘元 4年 1334	足利義氏が上野頼兼を石見に遣して南軍(宮方)を攻める。
		2月、来原の合戦。
		8月25日、「**波佐谷の合戦**」。馬場町内が戦火の中心となる。
		北軍(武家方)宇津木峠(雲月山)より那賀郡に入り、美又(追原)で戦い福屋に迫る。
	建武 3年 1336	「**波佐谷の合戦**」、波佐一本松城主小笠原大学公光。
	正平 元年 1346	波佐領主宇野孫兵衛。
	正平 16年 1361	3月11日、足利直冬の安堵状（吉川文書）によると、周布氏の庶子家島居兼元に「久佐郷内**波佐**清六屋敷田畠」などが安堵されている。
	正平 21年 1366	7月25日、大内弘世、金木城を落とす。同26日、大石城を落とす。これにて、石見の大半は大内氏に服す。
室町	長禄 2年 1456	尼子経久生れる。
	文明 元年 1469	12月、三隅豊信の知行地として「一ケ所　**波佐郷**」とある。（益田家文書）
	文明 18年 1486	1月1日、尼子経久冨田城を奪還する。
	永正 12年 1515	尼子経久、法華経を開版す。
	永正 13年 1516	尼子経久、京都東福寺より明海賢宝和尚を請うて、臨済宗の布教をさせ永昌寺の基を開く。
	永正 15年 1518	尼子経久の長男政久戦死する。
		政久の霊を弔うために、法華経3,000部、銭200貫を永正寺に寄進する。
	大永 3年 1523	尼子経久が安芸国東西条（広島市周辺）及び那賀郡南西方面を「切取」。
		石見東部三郡を領す。（邇摩郡、邑智軍、那賀郡）
	享禄 元年 1528	庄屋役、佐々木肥前守(波佐庄屋初代)
	天文 年中1532～	尼子経久、常磐山八幡宮を再建立する。大舞人、小舞人の宮座を配置。例祭日、8月18日～19日。宮座式（左）亀谷、一寸原、漆原、竹河内。（右）中谷、横小路、田屋、弋手（小舞人）栗木田、岡田、惣丸。（御輿持）千谷、西鳥居、坂根、沖ノ原下手、萬代、小野原、畑、神田。（獅舞）大河内。（大穀持）東横屋。（御供持）西横屋名。（敷物持）口屋、中屋。
	天文 6年 1537	毛利元就、尼子と絶ち大内氏に属する。
	天文 10年 1541	尼子経久、冨田城にて没す。
		永正寺の明海賢宝和尚、経久の葬儀に赴き、経久の分骨を拝受して帰り、永正寺に墓を造り菩提を弔う。「当寺開基性真院殿月里省心大居士神儀」
	天文 11年 1542	田中14代十郎左衛門宣綱、雲州から亀谷へ来住する。宣綱の子、田中対馬守宣連長女登良、久佐将監の妾3年後、亀谷へ男子、与市左衛門宣晴を連れ帰る。
	天文 12年 1544	波佐の地は、毛利元就の所領となる。
	永禄 元年 1558	真言宗天頂山長福寺零落して、今の浄蓮寺が後に造営される。
	永禄 3年 1560	10月、亀谷(佐田氏祖)田中与市左衛門、当村に来り住す。
	永禄 7年 1564	田中対馬守宣連、7月18日没。
	永禄 9年 1566	7月、冨田城落城する。
	永禄 11年 1568	浄蓮寺開祖、能海内蔵助(洞円)青尾釿から横谷(若生)三双船に移住し、下横谷を開く。
	永禄 12年 1569	明海賢宝座元死す。
	元亀 元年 1570	花城落城する。
桃山	天正 元年 1573	牓示。夏焼釿開設する。
	天正 年間1573～	亀谷家の祖である田中与市左衛門は雲州富田から波佐の地へ移住する。
	天正 8年 1580	柚根、光超寺開創なる。
	天正 11年 1583	広島県佐伯郡廿日市で、毛利・尼子合戦の際、速谷神社祠官佐伯式部少輔興藤、その子、藤四郎、毛利に滅亡せられ、同社を祀る者がいないため、亀谷家田中与市左衛門宣晴が親縁により、廿日市平良村に行き御神体を奉供し、当地の速田神社を建立、奉祭する。
	天正 15年 1587	「吉川広家領地付立」（吉川家文書）に「七拾貫　**波佐**」とみえ、波佐が吉川元春夫人の御料所に定められている。「100貫　久佐」もみえる。
	天正 17年 1589	円山城主小笠原長旗が戦勝祈願のため佐々木高綱の所用していた鎧などを甘南備寺へ小笠原家の家宝として寄進する。
	慶長 元年 1596	浄蓮寺開祖、洞円死す。八幡宮再建立。
	慶長 2年 1597	庄屋制度が始まる。初代田中善兵衛宣安（亀谷から宣綱の孫宣晴と長男善兵衛宣安が菅沢庄屋へ分家する。）浄蓮寺本堂建立。西本願寺派、下赤名村西蔵寺末寺となる。

時代	年　代	郷土に関する事象
桃山	慶長 5年 1600	八幡宮再建。古和氏（弋手）移住。宇喜多(後の坂崎出羽守)は、10月15日、関ケ原の戦いの軍功により石見浜田2万石を拝領、宇喜多姓から坂崎直盛に改名する。
	慶長 7年 1602	9月22日「波佐村御縄打水帳」公儀の検地あり、高933石2斗8升(古高)。浄蓮寺本尊申受ける。
江戸	慶長 8年 1603	徳川家康、江戸で幕府を開く。
	慶長 9年 1604	坂崎直盛、津和野藩3万石を拝領立藩となる。
	慶長 19年 1614	中谷二左衛門、年寄役。
	元和 元年 1615	大坂夏の陣で坂崎直盛が千姫を救出。
	元和 2年 1616	千姫救出の功により、7月20日、石見銀山領下の那賀郡26村、邑智郡2村1万3千石の飛び地を加増され津和野藩4万3千石となる。波佐もこの領下となる。
	元和 3年 1617	坂崎出羽守謀反により滅亡し、亀井政矩津和野藩に封される。波佐代官所が恵喜多に設置され171年間在官した。波佐組7ケ村3000石となる。
	元和 4年 1618	3月、「波佐村庄屋作高並買添田地改」あり。
	元和 5年 1619	浜田城主古田大善太夫重治、4万8千石。
	寛永 2年 1625	井野村社祠串崎和泉、次男右京親子、波佐へ移り社祠となり、代々相勤。
	寛永 11年 1634	大井谷の表谷釻開設する。
	寛永 14年 1637	「寛永検地」亀井茲政は、佐々布興兵衛、石川彦太夫に命じて、田畑の検地あり高1516石1斗8升となる。
	正保 年中 1644-	永正寺焼失。法華経、宝物など焼失する。
	慶安 元年 1648	慶西、小国の正念寺を創立する。浄蓮寺、市木の浄泉寺末寺となる。
	慶安 2年 1649	八幡宮再建。東谷庄屋役岸野伝次郎。
	承応 2年 1653	大歳神社再建立。西谷庄屋弥惣、東谷庄屋善兵衛、神主勝太衛門、大工治郎右衛門。
	明暦 2年 1656	3月に検地あり、『石州那賀郡波佐村検地帳』、打出高140石3斗8升1合勺(年々新田高)西谷村と東谷村に分村。西谷庄屋　田中太郎兵衛。東谷庄屋　田中善兵衛。
	寛文 元年 1661	菅沢庄屋4代目　佐田長右衛門。波佐代官所設置される。代官　柿坂文衛門。
	寛文 2年 1662	光超寺木仏寺号を許される。
	寛文 5年 1665	津和野藩、半紙の専売仕法を始める。
	寛文 8年 1668	光超寺創立する。
	寛文 9年 1669	浄蓮寺境内に厳島神社を勧請する。栗木田再建。
	寛文 10年 1670	浄蓮寺本堂再建(6間半四方)。
	延宝 2年 1674	凶年。小国村庄屋中兵衛零落に付、井野村庄屋三浦忠兵衛次男喜三郎着任。
	延宝 4年 1676	常磐山八幡宮へ輿、鏡、金幣を室屋谷、弥太郎より寄進。
	貞享 3年 1686	落し神社勧請。
	貞享 4年 1687	4月24日、亀井隠岐守286人の供を従え領内巡見。笠松より入り菅沢に止宿する。この時、西谷庄屋田中小八郎宣定、東谷庄屋山崎甚衛門。
	元禄 4年 1691	検地あり、高42石5斗5合3勺。波佐総高1699石6斗7合2勺。
	元禄 6年 1693	寺田庵建つ。
	元禄 9年 1696	貢租の代納として、半紙をもって収納米に替える換算率は、紙1丸(12,000枚)が代米6斗7升であった。
	元禄 12年 1699	牓示へ鍛冶屋を造る。
	元禄 13年 1700	八幡宮再建。大井谷地蔵堂再建。
	元禄 15年 1702	大洪水。不来ケ原流亡する。元禄より正徳まで菅沢庄屋佐田太郎右衛門宣直。
	宝永 3年 1706	大山祇神社、横谷に勧請する。9月、飯ノ山釻打入れ（三浦五右衛門）2月、「小国村年々新畠水帳」。10月16日、八幡宮神主串崎右京官職免許。
	正徳 年中	小国、稲倉神社創立。
	享保 元年 1716	東谷庄屋が西谷庄屋に合併される。
	享保 17年 1732	飢饉。亀井因幡守茲満巡村。7月、『西谷村中組田方名寄』。
	享保 17年 1733	飢饉となる。
	元文 4年 1739	大洪水。弋手原・沖ノ原流亡する。
	寛保 3年 1743	佐田太郎右衛門宣武、庄屋役御免。三浦安次郎兼隆が井野村野地から庄屋役となる。これより、三浦氏2代藤左衛門:兼良、3代弥三兼山、寛保3年より文久元年までの121年間庄屋役を代々勤める。屋号を「竹岡」と称する。4月8日、「波佐両村惣百姓請書」を新庄屋役三浦安次郎宛に提出する。宣武は後野村へ移住する。菅沢家断絶。弟の佐田紀六霞山、学問の為大阪で没。同弟佐田玄三郎直綱、医師として津和野へ。
	延享 2年 1745	三浦要助、大井谷地蔵堂を再建する。大山祇神社再建。
	延享 3年 1746	庄屋役宅消失する。このため三浦兼隆、恵喜多にあった波佐代官所を庄屋宅とし、庄屋役は2代目兼良に譲り、兼隆は、波佐代官の後見をなし、役宅を細田の地に移す。7月8日、先の佐田庄屋時代の鍋瀧山、隅川山、うつう谷山、栃下山の買請人庄原の香川葉左衛門、同直左衛門等が三浦安次郎庄屋役に証文を出す。

時代	年　代	郷土に関する事象
江戸	寛延 3年 1750	寺田庵空蔵蔵立。
	宝暦 元年 1751	西谷温子瀬社建立。
	宝暦 3年 1753	室屋谷焼失。
	宝暦 5年 1755	源屋敷、地蔵堂建立。
	宝暦 6年 1756	浄蓮寺転派(東本願寺)する。上田屋地蔵堂再建。 三浦兼良は恵喜多に居宅を構え屋号を「竹岡」とする。大工渡津村青木博蔵、木挽東谷与右衛門。
	宝暦 12年 1762	堂ケ原尻へ鈩所営造。
	明和 2年 1765	大井谷中籔五郎右衛門宅、榎田弥右衛門宅建立。大工栗木田庄右衛門、潰ケ原金作。
	明和 3年 1766	3年より5年まで凶作続く。 大工、木挽筆頭制度が始まり、波佐組の筆頭に小林源左衛門となる。 津和野城下町の火災に際して、小林源左衛門は、大工筆頭として津和野表の御屋敷再建に出かける。
	明和 7年 1770	大旱魃、雨乞いを行う。
	明和 8年 1771	落神社再建。
	安永 3年 1774	厳島神社再建。2月20日、三浦弥三、高津川の論争で御掛合に励む。
	安永 4年 1775	9月1日、高津川の論争の功績で御賞美として、帯刀御免となる。
	安永 5年 1776	5月より8月まで天候不順で凶作となる。大井谷の引地宅建立。大工、千谷弥七、西田屋周蔵。
	安永 6年 1777	7月7日、御請紙波佐庄屋三浦弥三支配下の者へ御賞美金三百疋下おかされる。
	安永 7年 1778	正月18日、地震あり、石垣など崩れる。三浦弥三庄屋役御免、勘定格となる。
	安永 9年 1780	浄蓮寺鐘楼門建つ、大工、渡津村青木傳蔵、西谷村小林勝右衛門。 稲作に虫害発生、虫送りをする。旱魃激しく凶作。
	天明 元年 1781	この年に波佐代官所が廃止され、久佐組代官下となる。旱で神主(波佐・今市・鼠原)3名、雨乞い。大井谷川より川筋の祈祷あり。
	天明 2年 1782	凶作続き飢饉となる。麦作は良し。亀谷の持地(辻堂・原名)を竹岡へ売渡し。
	天明 3年 1783	5月より日和悪く、土用に北風吹く。竹に実がなり大凶作。
	天明 4年 1784	大水害。餓死傷寒の者領内に多し。春、大井谷入会山を栃下鑪へ売る。
	天明 5年 1785	西鳥井名の田地、虎助買受け。長割鍛冶屋2軒。
	天明 6年 1786	9尺の積雪でエノキ倒れ神代舎破壊。 大凶年(安永9年より天明6年まで7ケ年間、天明元年と天明5年を除く5ケ年間凶作であったが、天明6年か最も凶年であった)公儀に検見を願えども許されず。 小野原山足谷鉄穴崩れる。
	天明 7年 1787	続く凶作に百姓難儀をする。葛の根など堀り辛うじて飢えをしのぐ。 三浦繁女、常磐山八幡宮に「ときわやま」の連歌を奉納する。
	天明 8年 1788	凶作。長安組代官下となる。大歳神社社殿吹き替え。泉屋宅建立。 清水半蔵宅建立。泉屋という。大工は渡津村青木弥七。
	寛政 2年 1790	2月7日、大風。被害多し。秋作豊作。竹岡、三浦藤左衛門次男要助佐竹屋へ分家。大工青木弥七。
	寛政 3年 1791	6月20日、大雨降る。中谷、上市より川が中谷へつき、大橋流れる。 春頃より海辺、西方、長安、岡原、奥原辺には、鹿、狼荒び人馬を噛み負傷者は残らず死亡する。
	寛政 6年 1794	6月14日、津和野藩主巡見。本陣100人、馬53疋、人足2,800人程なり。 遊行上人御通行163人。8月5日、今市お泊り送りのため、人足千人程、馬100疋。
	寛政 8年 1796	5月5日、大洪水あり、田8町歩流失。藩庁より多額の補助を乞い河川堤防を構築(東、西谷村で夫掛け9万人夫)。秋作大凶年で餓饉。百文銀を80匁にても米更に無し。
	寛政 10年 1798	西谷の室屋宅建立。大工青木弥七。
	寛政 11年 1799	神田作右衛門、槇ケ原へ分家。大工田屋甚五郎。
	寛政 12年 1800	猪多く、養父郡大明神を勧請祈祷するも効果無し。冬より正月5日まで雪7尺積る。 11月11日より27日まで鹿狩り、猪44匹、鹿20匹狩る。翌年正月にかけて6尺の積雪。
	享和 元年 1801	9月、「鍋瀧鈩山j買請申儀定之書」三浦藤左衛門と猿ケ谷鈩持人が毛上一生契約する。 天満宮500年祭を八幡宮に於いてあり。
	文化 元年 1804	休石庄兵衛宅建立。大工西田屋源右衛門。
	文化 4年 1807	鍋瀧に金を掘る。郡奉行佐伯本之助出張。五人組多左衛門方へ滞留せり。
	文化 7年 1808	1月4日、6尺8寸の積雪。大水害で水除け多く流される。神代屋再建。大工渡津藤田国右衛門。
	文化 8年 1811	2月、飢饉による食糧難で百姓一揆起こる。俵屋(澄川後右衛門)建立、大工源左衛門。 笠松畳石竣工記念碑「立石」建立。同所地蔵堂成る。落シ神社再建。 上新屋藤右衛門、土蔵建つ。礼銀五百目、上納仕、礼服御免。室田屋国助も同様。
	文化 9年 1812	栃下鑪打入。西鳥居再建、大工渡津屋弥七。東都心学先生、竹岡にて講義あり。 正念寺再建。

時代	年　代	郷土に関する事象
江戸	文化 11年 1814	亀谷建つ。石高改。半紙の請紙制により波佐村の請辻総高は、239丸54束であった。
	文化 12年 1815	1月15日、長沢鈩(竹岡・支配人折助)を松ケ谷鈩へ打替えで吹初め。
	文化 13年 1816	大洪水あり、谷伝兵衛流亡。
	文政 元年 1818	春大雪。
	文政 2年 1819	薬師堂再建立。
	文政 3年 1820	正月、大雪降る。奥中谷雪潰。栃下鈩を道川村本谷へ打替え。(加計隅屋・支配人庄助)。
	文政 4年 1821	大井谷引寺地蔵堂へ彩色地蔵菩薩奉納。谷川山の金毘羅社を八幡宮の空に移す。 石ケ淵愛助宅再建、大工栗木田源左衛門、渡津屋弥七。
	文政 5年 1822	永否改あり。6月、上田屋地蔵菩薩彩色。鈩迫本宅建立、大工栗木田源左衛門。
	文政 6年 1823	山田屋藤次郎居宅焼失。
	文政 7年 1824	栗木田に土蔵建立、大工源左衛門。
	文政 8年 1825	3月14日、抱月の父半三郎が白甲鑪で誕生する。
	文政 10年 1827	屋敷焼失。再建して鉄屋という。亀谷医師見俊眼病に罹り、讃岐の金毘羅宮より分幣し、 城山へ安置する。城山(三畝歩)は、代々栗木田所有であったが三浦庄屋の仲立ちで 城山へ。
	文政 11年 1828	大水害。
	天保 元年 1830	栗ノ木田橋架かる。
	天保 2年 1831	疱瘡大流行。
	天保 4年 1833	八幡宮屋根替え。中谷(岩崎紋八)宅再建、大工千谷弥七。。
	天保 6年 1835	大洪水。9月13日、大地震。
	天保 7年 1836	夏寒く霖雨70日間に及び大凶作。餓死者6軒で17名。松平周防守、竹島の竹木伐採 で所替え。
	天保 8年 1837	夏、餓死者はなはだ多し。疫病流行死者多し。飢饉による食料難で百姓一揆起こる。
	天保 9年 1838	波佐組代官所が久佐組代官下となる。12月から翌年正月まで大雪。土橋で2丈8尺。
	天保 10年 1839	6～7月、大旱魃。
	天保 11年 1840	年貢の未払いに対する休貸願いに関する百姓一揆起こる。桂迫鈩を開設する。 (地下農民の困窮を救うため古和定助忠直と三浦彦太郎義能が発起)
	天保 12年 1841	城山に金毘羅社建立。室田屋種助、下組組頭となる。西田屋再建、大工源左衛門、 木挽丈左衛門。大歳神社社殿吹き替え。
	天保 14年 1843	毎夜、ハタ星現れる。室田屋種助礼服御免。
	弘化 元年 1844	5月19日、大洪水(中谷沖)。栗木田橋掛替。 浄蓮寺庫裏再建、大工小林源左衛門、木挽岡本惣左衛門。
	弘化 2年 1845	藩主より紙漉きに御酒下賜。大雪。
	弘化 3年 1846	三浦兼能は、加計の佐々木八右衛門より鍋瀧の鈩所と鍛冶屋を買受自ら鍋瀧に移り 支配をなし、工業を繁栄させた。6月に勘場を建立、大工源左衛門。 『波佐之内鍋瀧鑪鍛冶屋宗門下改帳』嘉永年間まで毎年作成。
	弘化 4年 1847	城山の老松落雷により枯死。
	弘化 5年 1848	秋、田村六兵衛宅建立、大工源左衛門。
	嘉永 元年 1848	浄蓮寺庫裏建つ。大工小林源左衛門。
	嘉永 2年 1849	春改、波佐村253軒。その内、136軒本百姓。26件庄屋下人。38件百姓下人。43軒 無縁。2軒寺。1軒神家。2軒医師。2軒流罪人。この人1,522人。牛215匹。馬103匹。 4月1日、田屋より出火新屋、下田屋、田村、田中屋が消失、棟数13軒類焼。 春、弋手古和定助宅建立、大工栗木田源左衛門、藤田円兵衛、木挽岡本惣左衛門。 7月10日、大風で八幡宮御旅所倒れる。永昌寺再建、大工栗木田源左衛門、藤田円兵衛、 木挽木津屋惣左衛門。才ケ原傳右衛門宅建立、大工源左衛門。
	嘉永 3年 1850	八幡宮において天満宮550年記念祭あり。大風吹く。
	嘉永 5年 1852	2月6日、浄蓮寺法界住職没す。2月10日、八幡宮鳥居の木取りあり、本桁1本才ノ原背 戸山、本柱2本追ケ原奥より引く。4月10日、八幡宮鳥居上棟する。高さ1丈4尺。
	嘉永 6年 1853	4月14日、大水。4月16日、津和野城下、大火。4月より8月まで大旱魃。秋豊年。厳島 神社再建立。再び長安組代官下となる。江戸へアメリカ船4艘来る。
	安政 元年 1854	11月5日、大地震。落シ神社再建。
	安政 2年 1855	1月18日、大地震。3月～4月、八幡宮社殿屋根葺替え。10月5日、上横谷神社再建。
	安政 3年 1856	3月、津和野にて大工筆頭、源左衛門礼服御免。
	安政 4年 1857	5月8日、大雷。5月11日、大水。5月18日、大地震。5月21日、大水で妙見橋を除く全て の橋が流亡。8月25日、津和野領主亀井氏巡視、当村一泊。 徳田鍛冶屋土蔵建立、大工源左衛門。柏屋本右衛門宅建立、大工源左衛門。
	安政 5年 1858	4月、永昌寺供養。夏、八幡宮に金毘羅社堂建立。9月、河内神社普請、大工源左衛門。 8月14日頃から慧星四方に出没する。8月・9月、長州、広島地方コロリ流行。 8月24日、津和野藩主亀井氏小国村より波佐村巡在竹岡にて一泊。25日、後山へ巡回。 相撲見物。8月25日、大地震。12月2日、大地震。唐谷上み山崩れ。
	安政 6年 1859	9月9日、大地震。損害多し。皆屋外に小屋を作り出る。横谷臼木谷山崩れる。

時代	年　代	郷土に関する事象
江戸	安政 6年 1859	9月11日、16日、地震。村民危険のため仮小屋を建て避難する。遠田の莞筵91枚を共同購入。
	安政 7年 1860	3月23日より5昼夜、浄蓮寺にて600回忌法会執行。5月、長雨。6～7月は、雨少なく、秋作不良。大豆種無し、柿無し、楮半作、大豆・蕎麦半作。秋より翌年3月3日まで雪降らず。
	万延 元年 1860	11月22日、東谷百姓、年貢の辻米事件により、百姓一揆起こる。永昌寺再建。 万延元年、田中宣貴（謙三）、種痘開業の功により宿老となる。
	文久 元年 1861	1月11日、東谷百姓一揆により三浦藤左衛門兼山は庄屋役退役となり、井野村へ退去。 津和野留守居組羽野平吾庄屋を勤める。羽野平吾より源左衛門は、忠三郎と改名とする。 鍋瀧鈩から栃下鈩へ移る（支配人三浦彦太郎）。
	文久 2年 1862	長安庄屋の岡本重文が波佐庄屋と兼務となる。5月9日、小国の森貞火災。6月30日、三双舟火災。6月より麻疹が流行する。
	文久 3年 1863	岡本氏、長安より入り屋号を「菅廼舎」と定め庄屋役を勤める。藤左衛門、井野村で死去。 12月、抱月の祖父一平一家は小国村田野原鑪へ転居した。 秋より永昌寺の普請始まる。尼子経久公建立の七堂伽藍の寺は、正保年中に消失。菅沢庄屋田中氏の部屋家を普請し220年に至る。西田屋忠三郎発起で頼母子講米11石4斗。
	元治 元年 1864	2月6日、大地震あり、浜田町家倒壊消失。死者多し。 疫病流行死者18人。村内猪狩り。神社仏閣合併。大歳神社社殿葺替え。 津和野藩知事亀井公辞職。浜田県の管轄となる。 6月5日、大水害、橋、井手殆ど流亡。10月22日、朝大雷、大アラレ降る、重さ5匁あり。 田野原鈩佐々山一平(抱月祖父)死亡。紙漉き百姓へ御酒を家内の者へは、赤飯を賜る。
	元治 2年 1865	3月3日、大雪降る。5月、波佐村、小国村で田ばやしが賑やかに行われる。 7月7日、稲虫大発生で、長沢下渕まで虫送りを行なう。この秋、穀物不作。
	慶応 元年 1865	5月、波佐・小国で田伶（大花田植）あり。7月7日、稲虫多く長沢へ虫送りをする。
	慶応 2年 1866	抱月の父半三郎一家は佐々田家から鉄山退去を命ぜられ小国村下土居へ転居する。 6月9日、長州征伐として福山藩主渡村九右衛門今市に宿し、波佐より荷送人夫250人が召集される。福山勢、益田に戦い、敗れ敗兵40人明比谷を通り福山へ帰る。 6月16日、津和野藩家老波佐を通り笠松峠越えで帰る。 6月18日、敗兵2人榎田に宿す。6月23日、大雨のため橋多く流失する。 7月15日、福山勢大麻山に長州兵戦い敗れる。大砲の音、波佐まで聞こえる。 7月17日、長州勢浜田城を攻める。城主松平右近将監敗れ自ら城に火を放ち退城。
	慶応 3年 1867	8月3日、浄蓮寺第10世寂。11世法幢入寺。 正月23日、村内残らず猪鹿山狩り。7月17日、稲虫を長沢へ虫送りする。 8月観音堂、地蔵堂合併。10月、籔神小社等合併。神主舞から百姓神楽始まる。 抱月の父半三郎は、氏神である最中山神社へ絵馬額を奉納する。
明治	明治 元年 1868	猪鹿多く獲る。4月15日、社寺奉行出張神社仏閣合併の改めあり。 5月18日、能海寛浄蓮寺にて誕生する。6月2日、5寸の稲苗に出穂する。6月8日、9日、虫送り。
	明治 2年 1869	4月日、沖ノ原表屋、下手、三浦屋、棟数6棟焼失する。5月2日、大風吹く。 6月より8月まで、寒く雨降り続き菜も蕎麦も蒔かれず、稲作虫害多し。猪鹿多く作物を害する。 8月15日、大凶作につき、津和野御役人稲の検見あり。この年，乞食盗人多し。
	明治 3年 1870	正月より竹岡、佐竹屋、弋手、亀谷、室田屋、室屋谷より「粥」を煮て困民を救助する。百姓、無縁の者共難渋の者は、庄屋役所へ願い出、毎日米7合の給与を受ける。この介保米を受けざる者は、僅か17名のみ。昨秋より後山において餓死19名に及び、その他、村内に餓死する者多し。 6月4日、後山にて藤尾、笹ケ谷、大向イ、水口の4か所で1石4斗苗田植付け未済により、今田組、西田屋組、庄屋内、男女、牛共に3日間で185人役で植付け奉仕。 8月27日、栃下鈩吹小屋焼失する。10月、平民苗字が許される。波佐村339軒。 これまでに苗字が許された者、三浦、古和、石田、佐田、岩崎の5人。 12月より翌年正月までに猪鹿150匹を取る。
	明治 4年 1871	1月10日、金城町小国イ462番地「下土居」で、島村抱月誕生する。幼名「瀧太郎」。 正月まで、猪鹿150頭獲る。3月12日、大風。5月5日、大水害。6月、天満宮鳥居建立。 7月廃藩置県により、庄屋制度が終り浜田県となる。8月26日、百姓一揆起こる。 9月12日、京都本山より使僧3人が浄蓮寺にて法会。9月28日、長安組22ケ村出張所廃止。 9月、百姓、町人帯刀一切禁止となる。社寺系内の樹木の伐採を禁ずる。 10月29日、大雪降り積もり、11月4日、2尺8寸。猪鹿多く獲れる。猪1匹獲れば米3升賜る。 11月、石見1国で浜田県となる。古来納めていた楮半紙6割方上納、4割方御楮預となる。 この時の紙役は、古和定平、東谷、休石清兵衛。明治3年半紙受高153丸1束、中保10丸。 明治4年受高半紙93丸18束、中保9丸。12月13日、波佐村の半紙43丸津出し。 12月26日晩、西北の空が火事の如く赤く染まる。大雪で毎日大吹雪となる。米1石が4両。
	明治 5年 1872	2月、久佐・長安組米300石の内波佐15石を松原の御蔵へ津出し。2月4日、新年祭に氏神へ百姓共参拝する旨の達あり。2月6日、大地震あり。3月20日までに波佐分米21石津出し

時代	年　代	郷 土 に 関 す る 事 象
明治		の達あり。半紙66丸、中保7丸津出しの達あり。3月、鉄砲規則定まる。
		3月14日、浜田地震、浜田町家倒壊消失。死者537人。震度7の激震あり、臼木谷にて
		2人圧死。家屋損害多し。田畑の損害少なからず。各戸戸外に小屋掛け仮住をなす。
		太陽暦を用いる。高源釼地震により、大被害を被り、新たに大前釼を佐々山一平打入れ。
		抱月一家は、小国村から弥栄村門田、大前釼へ移住。4月、米94石5斗2升7合波佐村
		より内村渡へ津出しの達あり。戸長、庄屋、名主、年寄など廃止。7月6日、管内の郵便取
		扱開始する。7月6日、管内の郵便取扱開始する。7月、無鑑札による牛馬の売買の禁止。
		一揆の刑罰の達。11月、波佐村は西谷部と成る。12月3日を以て、大陰暦を廃止、太陽
		暦に定める。
	明治 6年　1873	11月13日、東谷、後山、大井谷、西谷4ケ村戸長岡本重文、副戸長佐竹要助、石田喜三郎。
		6月10日、大洪水。庄屋は戸長、組頭は副戸長、五人組は組長となる。村役人全て散髪の命。
		6月、徴兵制度始まる。7月、証文への花押を廃止し、実印を使用する。9月9日、大風。
		8月、八幡宮中殿の普請。
		9月、『田畑屋敷改正地引帳総寄』那賀郡西谷部西谷村、東谷村、大井谷村、後山村の4冊。
	明治 7年　1874	昨年暮より1月2日まで大雪降る。
		抱月の弟雅一、大前釼で誕生する。
	明治 8年　1875	7月、各釼山関係者、諸物価の高騰により釼所、鍛冶屋の人夫賃値下げを儀定する。
		抱月一家は、弥栄村門田、大前釼から父一平持分の小国村イ224番地「中屋」に
		転居し、仮宅をイ226番地(15坪)に造る。
		8月16日、能海寛の父法幢没す。寛は父の里、専光寺で養育されることとなる。
		8月、波佐小学校(郷蔵)開校。9月、東谷小学校開校。小国小学校・柚根分教場開校。
		10月、中江宅再建。
		11月、西谷村と後山村が合併して波佐村。東谷村と大井谷村が合併して長田村となる。
		波佐八幡宮が郷社となる。
	明治 9年　1876	大旱魃。波佐・長田・小国村戸長岡本重文退職し、後任戸長に竹中真虎就任する。
		3月1日、大風あり家屋の損害多し。11月、道路、堤防、川、水路の取調。
	明治 10年　1877	3月21日、抱月一家は、再び小国村イ462番地「下土居」に転居する。
		後藤田宅、下屋敷宅再建。大工小林忠三郎、木挽酒井保平。
		6月、能海寛は、広島小教校(進徳教校)へ入学する。
		10月、社寺什物調査。
	明治 11年　1878	4月8日、抱月の弟寛一が誕生する。5月、小松木牧場(松山牧場)を開く。
		6月、小区編成替えにより、八区(波佐・長田・小国村)となる。
	明治 12年　1879	1月18日、波佐イ531番地・波佐郵便局を開局する。3月、波佐・長田・小国村の三か村
		連合役場を波佐村に設置し、戸長に竹中真虎が当選する。
		米作大豊作。10月28日、能海寛は、京都東本願寺にて得度する。
		12月より小松木山鉄穴を開始し、明治27年まで15年間採取する。
	明治 13年　1880	11月3日、上横谷の岩田利三太の家の前に長1寸8分、横1寸6分、厚さ8分の氷降る。
		11月25日より翌年1月21日まで横谷の平地で8尺の大雪降る。
		能海寛は広島小教校予科を卒業する。
	明治 14年　1881	5月2日、抱月一家は住みなれた小国村を離れ久佐村162番ノ1舎「熊屋」に移転。
		能海寛は、養育先の専光寺から浄蓮寺へ帰り、義父謙信から漢籍・宗乗を学ぶ。
		7月、神社に氏子総代、浄蓮寺に檀家総代を置く。
		8月、始めて那賀郡波佐村村会規則41条(議員の人数、区域)を制定する。
	明治 15年　1882	2月25日、本山へ献木。長さ2丈6尺、太さ2尺8寸八角。3月3日、芸州見坂辻まで搬送。
		能海寛は石見学場で夏期講習会を受講修学する。
	明治 16年　1883	抱月、久佐村にて家業倒産のため、久佐村小学校卒業後、浜田町で薬局見習い
		となり、夜学に通う。能海寛は石見学場で夏期講習会聴講する。
		古和定平三男嘉三郎、一寸原に家を建て分家、屋号「土手」とする。潰ケ原宅新築。
		6月から9月まで大旱で浜田大橋川の水が乾く。
	明治 17年　1884	抱月、浜田裁判所の給仕をしながら、漢文、英語、数学を独習する。
		能海寛は石見学場で受講し、三隅町芦谷の善徳寺に泊し『尊号直銘文』を書写する。
		11月下旬より大雪降る。4月上旬まで平地に雪あり。川の水も凍る。
	明治 18年　1885	4月より7月まで雨降りが続き、一週間の晴天も無し。烈風。大水。春作大凶作年。
		夏、麻疹。秋、疫病流行。米不作。8月15日より耕地地押調査始まる。
		8月18日、黒瀬釼焼失。11月29日、河上屋、飯田啓蔵宅焼失。
		夏、風疹。秋、腸チブス流行する。小国稲虫多く、米・楮不作。
		能海寛は石見学場で受講後、9月に広島教校へ入学する。12月に学校統合される。
	明治 19年　1886	2月3日、4尺の大雪降る。浜田でも2尺の積雪。夏、日旱。3月、上中祖坪屋弥左衛門、
		横小路本宅を買受け、再建立する。大工小林忠三郎、木挽有地佐市。
		能海寛、3月に京都普通教校高等科へ入学。反省会へ入会。チベット探検を発表する。
		6月30日、地押再調達あり。7月1日より再調着手。9月24日晩、大暴風。

時代	年　代	郷 土 に 関 す る 事 象
明治	明治 20年 1887	波佐村戸数249戸、人口1,072人。長田村戸数128戸、人口563人。 小国村戸数188戸、人口950人。合計565戸、2,585人。(1月1日現在) 能海寛、普通教校本科初年級へ編入となる。聖地巡礼で比叡山へ参詣する。 1月より半紙改良講習会を佐竹要助氏が開く。5月に佐竹氏、経木製造弘業社を室屋に開く。 12月に、佐竹屋の四辻に養蚕室を建てる。
	明治 21年 1888	米価下落。能海寛、哲学館館外員となり哲学・英語・梵語を学ぶ。普通教校内で 「英文会」(E・C・S)を主宰し、月刊機関誌『NEW BUDDHST』(新仏教徒)を発刊する。 岡本初治、酒井十平、製紙改良で四枚漉きを始める。 3月、沖柳幾治本屋再建。大工小林庄三郎、木挽酒井十五郎。田中庄吉宅建つ。大工 砂田光太郎、木挽小林冨五郎。常盤屋、田中貞造宅建つ。大工砂田光太郎、木挽冨五郎。
	明治 22年 1889	2月11日、80歳以上の者へ金1円。90歳以上の者へ1円50銭を賜る。該当者18名。 3月、長田一差シ、石河幾十郎宅再建。大工宮崎冨三郎、木挽小林冨五郎。4月、町村制。 波佐村、長田村、小国村が合併して、波佐村となる。自治区制となる。村長は竹中眞虎。 6月16日、知事の巡回(一行14名)木太り波佐に移り、古和文一宅で一泊。翌日、長安へ。 稲に虫多く、毎夜虫送りをする。7月より赤痢病大流行。秋祭り一ヶ月延期。 秋作米、楮が大不作。小作人は検見を受ける。 波佐村にて始めて英語を学ぶ者あり。 能海寛、1月に大学林文学寮本科二年甲生へ編入となる。12月に東京へ上京する。
	明治 23年 1890	1月～3月、殆ど雪降らず暖冬。4月7日、小国正念寺に7, 80人集会して分割、独立を論ず。 10月16日、浜田楓川教校生徒行軍で浄蓮寺へ来る。40余名。翌日長安へ移る。 能海寛、慶応義塾へ入学。学内で、英文会を組織し機関誌『Wisdom and Mercy』を出す。 3月、E. アーノルド卿から英文の指導を受け、W. ウエストンから登山の指導を受ける。 抱月上京し、島村文耕から月5円の学資を受ける。 抱月、森鴎外に進路の相談をする。4月、八幡宮拝殿手斧始め。22日、地搗きあり。 4月7日、小国人民80人正念寺に集会して分割独立論を起こして協議する。 7月稲虫退散の為御社内に大社勧請。8月30日、柚根、徳田人民申し合わせ、波佐を分村 久佐村へ合併の件、波佐村会に請願するも村会これを入れず中止となる。
	明治 24年 1891	能海寛、哲学館に転入学する。哲学館普通科修了。富士山へ単身登山する。 身延山へも参詣。房州で水練。南條博士の門下生となりサンスクリット語を学ぶ。 6月、抱月は島村文耕の養子入籍となる。7月、波佐村長、佐竹浅次郎となる。 9月、抱月は再び東京専門学校文学科二回生として入学する。 4月下旬、波佐一本松城より砂走りへ落石。波佐学校(元郷蔵)解体し、天神目下に再建。 5月21日～23日、八幡宮拝殿建立。7月21日、大雨。9月3日、八幡宮上棟式。 9月24日、大元舞あり。12月30日、大風。
	明治 25年 1892	4月27日、普明山天満宮を菅沢に移し拝殿建立。6月1日、大風。6月23日、中間で牛供養。 7月、天満宮神殿上棟式。発起古和文一、大工藤田治太郎、木挽酒井安平、石工小坂清 右衛門。哲学館高等下級を終了。能海寛、東京南島紀行(伊豆七島めぐり)をなす。 7月より9月まで赤痢流行する。12月29日、横小路大田常三郎、八幡村児玉覚方へ引越。
	明治 26年 1893	1月11日、栗木田始めて改良紙を製造する。改良紙2丸20束漉き上げる。 1月より雪降積り極寒のため麦3分の1残れり。2月、楮安値、5貫目45銭、半紙10束80銭。 河原田、芹原、本屋再建、大工砂田見刈太郎。潰ケ原長屋再建、大工小林庄三郎。 4月、波佐高等学校を開校する。正教員中村文作。 5月3日、大風。9月11日、大洪水で田畑、家屋の損害大(弘化元年以来)。 能海寛7月7日、哲学館を卒業する。鎌倉・二見ケ浦の全国仏教青年講習会で大内 青巒氏と講演する。11月、能海寛の論文『世界に於ける仏教徒』を自費出版し、 チベット探検の必要性を発表する。 8月31日、小松木山鉄穴業争論を起こし休業となる。10月14日、大風で稲掛25枚倒れる。 10月21日、永昌寺瓦屋根葺き替え上棟式。
	明治 27年 1894	1月3日、能海寛は、浄蓮寺檀家あて「口代」を残し、2月27日には頭髪を切り、「口代」 に添え置く。1月4日、抱月は島村文耕の姪イチと結婚入籍する。 抱月、東京専門学校文学科を第二期生として卒業する。『早稲田文学』の記者となり 「抱月」を雅号とする。同窓会記念録に自ら「島根県石見国那賀郡小国村に生まれる 元佐々山」と著す。5月2日、村長佐竹浅次郎、竹中助役辞職する。 9月11日、大水害、堤防、田畑、橋梁流失、被害甚大。51年来の大水。 11月29日、浄蓮寺で戦死者の追善法会あり。 郷社波佐八幡宮で波佐道の起工式が行われる。12月、波佐村長佐々岡延蔵となる。 12月15日、午前4時～午後10時に初雪2尺1寸5分積る。傍示より波佐役場まで粗開通。
	明治 28年 1895	1月15日、木田村の住人佐々岡延蔵、波佐村の村長となり入村する。 1月30日、能海寛が波佐倶楽部創設。7月、能海寛、益田市沖の高島で寺子屋教育を開設。 4月20日、村議会議員選挙半数投票。
	明治 29年 1986	2月14日、15日、大雪降り平地で3尺積る。3月、波佐村農会始まる。米価1石8円50銭。

時代	年　代	郷 土 に 関 す る 事 象
明治		4月、波佐高等学校生徒の修学旅行（厳島神社）校長中村文作が引率する。
		能海寛、東京の南條文雄博士宅へ寄留し、梵語、中国語を学ぶ。8月18日、大水害。
		8月、佐竹屋、養蚕小屋地普請の際に地中より錫杖・刀を掘り出す。12月、四辻の潤郷館
		を移転地より錫杖出土。12月31日、黒瀬鈩吹小屋（岡田為吉所有）焼失する。
	明治 30年　1987	能海寛、経緯会に所属し、仏教関係の論文を投稿。佐々木静子と婚約し共に上京する。
		5月28日より田植え始め。6月12日、代満て。15日、辰ケ迫で大田植、牛27頭、田太鼓14筒。
		6月17日、浄蓮寺迫奥の田で新開田植えあり。6月21日、大潰美川林治（才ノ原）前にて
		牛供養、大田植えあり。8月、毎夜虫送り。
	明治 31年　1898	6月29日、能海寛郷里で、佐々木静子と結婚する。本山からチベット派遣僧の許可が下り、
		10月4日、浄蓮寺を発って上京する。11月、神戸港から西京丸にて中国へ向う。
		抱月、9月に東京専門学校文学科講師となる。
		3月10日、小学校高等科教室2階新築。坂田屋居宅再建。大工砂田光太郎、木挽宮藤繁太。
		4月3日、地震あり。6月17日、伯楽藤本豊太郎発起で枯木谷において大田令あり。
		6月、波佐村で初めて人力車が通る。戸河内の老夫婦、浜田からの帰り道。
		10月15日、地震あり。11月17日、浜田兵1200人が八幡村での演習行のため波佐村で昼食
		のため古和、石田、佐竹、三浦で休息。杉佐屋で歓迎あり。
	明治 32年　1899	能海寛、1月7日重慶へ到着。4月1日、第1次探検に赴く。峨眉山登山。6月12日、
		ダルツェンドへ到着。9月27日、金沙江（牛古渡）で対岸を眺め無念の句を詠む。
		10月22日、ダルツェンドまで帰り、半年間滞在して仏典研究に没頭する。
		抱月、三省堂辞書編集部へ入社する。
		1月11日、尋常高等小学校中村文作は都治村へ転任。後任に河上惣市が転任する。
		1月より自家用酒造が廃止となる。3月、弋手原、原田治三郎本屋再建。
		6月22日、藤本豊太郎、枯木谷において大田植あり。牛65頭。田太鼓36. 早乙女31人。
		高山三角点測量あり。室屋谷千代太弟竹田梅市医師を開業する。6月26日、下ノ橋で源
		屋敷の古墓読経あり、僧侶13名。8月10日、東大風で家屋、納屋が倒れる。
		9月17日、浜田連隊1,200人、波佐の栃下を通り八幡村へ行く。10月16日、1寸の初積雪。
		10月30日、岡本重文郡会議員に当選する。12月、大畑、枯木谷、大畑部屋車力を求める。
		板材木を押す鹿原へ運ぶ。横渕山の槻材を雲城村へ運ぶ。
		12月、八幡宮本社屋根替え。
	明治 33年　1900	3月、波佐村議会で横谷道改修が決議。3月、佐々岡延蔵退職。5月、波佐村長佐田伊作。
		3月、能海寛は、「般若心経」西蔵文直訳の梵・蔵・漢・英対訳をなす。
		5月17日、第2次探検に赴く。西安府を経由して8月15日、チベット領タンガルに入国する。
		8月22日、タンガルの宿屋で盗難に遭遇し、11月4日、重慶へ戻る。
		抱月、8月に三省堂退社し、早稲田中学校教員を兼任する。
		7月10日、浜田21連隊第三大隊波佐村惣丸より上み青木まで86軒で宿。古和に大隊本部、
		三浦に九中隊、佐竹に十中隊、岡本に十一中隊、石田に十二中隊を置き、馬場に馬屋を
		建て、八幡宮に45名、永昌寺に50名、浄蓮寺に63名。柳屋より下も全て5人～10人宛宿泊。
		翌日、傍示を通り広島へ。15日、宇品港より清国へ行軍せり。
		9月23日晩より八幡宮例大祭。23日晩、長田若連中の舞。24日晩、波佐若連中の舞。
		25日晩、太夫枚り。維新以来の太夫舞廃止のところ、始めて執行。自芝居も三夜あり。
		秋より薪炭値上がり、後山、深笹、大井谷で炭焼き多く用材が値上がりとなる。
	明治 34年　1901	2月17日、横谷で雪崩発生2名死亡。積雪量3尺8寸あり。
		2月22日、能海寛は第3次探検へ赴く。貴陽へ向かう。4月17日、雲南省大理府へ着く。
		4月18日、能海寛は中国雲南省鄧川から恩師南條博士あて最後の音信を出す。
		抱月、東京専門学校第2回留学生に内定し、早稲田中学校を辞職。
		8月、稲穂枯病大発生で9月19日晩、小森兵市宅へ50余名集会し頼母子講休会を協議。
	明治 35年　1902	抱月は、英国、独国に留学する。
		1月元日の年例会は、凶年につき廃止する。2月13日、大雪、平地3尺2寸。
		2月3日、尋常高等小学校長林光友は濱田小学校へ転任。山崎幸雄校長着任。
		6月、雨量観測所を役場背戸に設置。6月中、大井谷より京釜行きの鉄道枕木3千丁出る。
		7月8日、植田の検査が行れる。10月25日、菅沢天満宮先年祭。八幡宮で芝居、狂言あり。
		鈩業は全て廃止となる。
	明治 36年　1903	1月3日、地震あり。米相場石に付15円。9月、米価下落11円。10月下旬9円となる。
		11月、白炭の運搬が始まり日雇い雇用も始まる。
		能海寛が哲学館卒業後、10年間の功績により、哲学館より「講師」の称号が贈られる。
	明治 37年　1904	能海寛の弟登がハワイ別院へ布教活動のため渡航する。
		10月、波佐村長、山本友二郎となる。
		1月6日、積雪2尺5寸。翌日より21日間雪降らず暖冬。
		5月6日、浜田歩兵21連隊4千人出立つ。その内3千人は今市通過。1千人は波佐通過。
		中間より柳屋まで、長田は東側原田まで宿舎。弋手三大隊本部大隊、室田屋九中大隊、
		菅廼屋十中大隊、佐竹屋十一中大隊、竹岡十二中大隊、永昌寺50人、浄蓮寺50人、其他

時代	年　代	郷 土 に 関 す る 事 象
明治	明治 37年 1904	5人～10人宛総員946人。宿料金受高396円。駄馬70頭。7日、午前8時出立、9日広島着。
	明治 38年 1905	1月4日、旅順開場の達。7日、小国村光超寺の部屋より出火抱月の実父一平が焼死す。 4月15日、上惣丸、18日、柚根金舛屋、19日、吉田屋、竹田屋が相次いで放火され焼失。 犯人は、足谷の斉藤乙治と廣岡関太で23日に捕縛される。 6月22日、従軍兵の岡田利喜太氏から能海寛の横死情報が小林久太郎宛てに届く。 7月26日、浅草本願寺で追弔法会を執行。静子夫人も参列。9月12日、抱月横浜港に帰る。 11月、後山藤尾谷へ杉桧11,190本植付。藤尾岡本の所有山を古和文一110円にて買取り 波佐村へ寄付をする。 その後、能海寛の横死情報は訛傳憶測と井戸川辰三氏から打ち消され真相は闇となった。
	明治 39年 1906	抱月は、早稲田大学内に「文芸協会」を創設し、演劇の近代化運動を起こす。 2月24日、40歳以下の者へ種痘あり。この年から田植えは正條植えとなる。 夏より桜木を木管に製造する者数人。大井谷へ大阪の三陽商会社が入り大工場を建設。 12月、波佐村長佐竹英一となる。
	明治 40年 1907	9月、抱月は英文学科教務主任となる。 1月31日、寒気激しく大雪降る。3月29日。奥本瀧蔵宅建立、大工沖田乙治、木挽自作。 水口権平宅再建、大工小森兵市、木挽松田隅治。溝下、長田新吉土蔵新築。 4月4日頃から苗代。4月20日、村会議員半数改選。9月1日、天満宮に征露記念忌建立。 12月、四八材1万数千丁を川出し。栗の実豊作で300石を拾いて、干栗1升5銭5厘で売却。
	明治 41年 1908	6月、抱月は文学科でトルストイ研究を開始する。 6月16日、高下の前上山近蔵の田で「田伶」(牛寄せ)40余頭。 1月中旬、暖気洪水により、坪屋虎市四八2万余丁流木。浜辺の引き上げ中に大損害せり。 3月、鉄屋岡本峯太本宅再建。大工岩田早太、木挽能海宮太。 6月16日、高下の前にて上山近蔵の田で牛寄せあり。牛40頭賑やかに田伶(田囃子)あり。 夏、養蚕等大豊作。米価石に付14円50銭。 久佐村の清陰佐々田馨児来り菅廼舎の酒蔵及び部屋を借りて酒造業を開く。 徳田の大歳神社は最中山神社に合併となる。12月、坪屋虎市は四八運搬業請負で度々 の損害で大借のため持分門ノ切4反を金980円米40石で河崎茂八へ売却する。
	明治 42年 1909	3月、文芸協会を改組して、演劇研究所を発足する。一期生として小林正子入所。 波佐殖産10年計画を決定。 鍋瀧山立毛上4,000円で筒賀村田中地吉右衛門が買取り明治40年より鉄道枕木出人夫 多く入込み春より馬車で八幡村へ運搬し、冬は2万丁を波佐川で川出しする。人夫賃は 食を外し30銭より50銭に及ぶ。叉白炭値段よく横谷より多く運搬し、雪降らず暖冬なり。 3月29日、隅廣屋、隅田周吉宅建立、大工沖田乙治、木挽石橋口太。小森兵市土蔵立つ。 大工徳田孫治、木挽岡田秀治。5月24日、地震。6月17日、羽田、橋本春太新田を開墾し 牛寄せあり。牛22頭、大太鼓22筒、早乙女24人。6月19日、橋ケ原にて牛寄せあり。 今年限り暦に大陰暦の記載を廃止し、旧暦はこの度限りとの通達が出る。
	明治 43年 1910	横谷・後山に正規の分教場を設置する。 1月、大雪降り2尺6寸。楮30〆に付8円より6円でも買人なし。漉賃10束で7升になるも 今年は8升にて沢山あり。漉分け6貫200目より6貫600目となる。米価は石に付9円50銭。 2月、間所横山房五郎宅建立、大工井上権太、木挽松田隅治。休石藤本石太土蔵建立。 寄田屋納屋建立。樋ノ口、岡野徳治本宅再建、大工石橋奥治、木挽石橋忠太。日焼ケ 中祖早蔵納屋建てる。青木屋小作家建てる。4月20日、村会議員選挙当選者6名。 昨年秋より四八材及び栗角2間物、栗丸太等鍋瀧、栃下奥及び傍示より流運。木材山師 は日野眞口、田中地吉右衛門、木下鉄蔵等4名。惣請負者坪屋虎市。人夫は波佐村及 び他村の人で毎日7，80人の人夫を使役して4月20日まで周布の津摩ノ浦まで4万余丁 の川出しを行なう。 6月18日、藤野屋、稲田友太、開墾田で牛寄せを行なう。牛28頭、田伶あり村内休業参観。
	明治 44年 1911	抱月、文部省文芸委員に任命される。文芸協会第1回講演「人形の家」を演出する。 傍示や西谷川も四八流し2千丁におよぶ。3月、4月米価高値石に付14円～15円。 5月、田植えは正條植えとなり、各戸に付、10人役増役となる。5寸角、5寸5分角、模範作 8寸×7寸5分の試験田を栗木田に設ける。田植縄定規、ハシゴ定規、格子定規等を使用。 田打車を使用者3軒、自家製を使用者20余軒。雑植えの者は警察署から呼出しを受ける。 米価上がり7月には石に付17円80銭。 11月20日、三浦廣三郎持山鍋瀧の欅材売却代金6千円なり。買人は大阪の冨士九会社。 12月、横谷道改修の協議あり。鍋瀧の欅材売主三浦廣三郎、用材買主大阪冨士九会社 が600円宛寄付して道幅7尺の道路(工事費1,200円)を新設する件。
大正	大正 元年 1912	7月、横谷車道改修工事延長8.1Km。 2月、浄蓮寺能海法言の弟春谷皆乗米国にて病気になり帰朝。米価石に付19円。 3月、長田郷蔵不要に付解体し、三浦廣三郎買受け、6月に菓子屋の前に移築する。 6月21日、小国鍛冶屋沖で大田植え。牛96頭、大太鼓多数。6月、米価高騰石に付24円。 8月中旬より米価下落石に付20円。9月上旬16円となる。

時代	年　代	郷土に関する事象
大正	大正 元年 1912	11月、下小法師、岩本国太土蔵建つ、代粉岩田早太。隅田屋、隅田与一土蔵建つ、大工小森兵市。上飯田ケ原、飯田仙三郎土蔵建つ、大工小森兵市。12月、万代部屋土蔵建つ。明治屋前に日高金助居宅を建て理髪業を始める。米価石に付21円となる。
	大正 2年 1913	9月、抱月、松井須磨子、沢田正二郎らで「芸術座」を立ち上げる。 1月3日より浄蓮寺の材木引が始まる。3組に分け毎日橇で木曳。大阪の冨士九会社も毎日橇にて木引あり、100人から200人が使役され、日当は30銭～40銭、女20銭～25銭。木挽き費、山出し費が4千円。 1月～4月、土手、古和右吉郎土蔵建つ、大工、石橋奥治。2月、西鳥井、西林藤田土蔵建つ。枯木谷小林卯三郎土蔵建立。溝下岡本徳太宅馬場に建立。4月、村会総選挙。 5月、橋本屋、沖柳惣太土蔵・納屋建立。浄蓮寺再建の棟梁波子藤川長吉、浜田山本亀吉。 6日、準備。7日、大工数名木屋入り。米価下落石に付21円。麦1斗に付1円50銭。 6月、7月、室田屋より浜田へ冨士九の欅を馬車で運搬。7月、道路、才ノ垰、笠松峠道掃除。
	大正 3年 1914	1月17日、柚根・光超寺再建。波佐村村訓・村歌制定。 3月、「復活」の劇中歌、「カチューシャの唄」が大ヒットする。 5月、抱月は故郷石見を慕い「浜田港」に寄せる序文を書き記す。
	大正 4年 1915	8月に芸術倶楽部を牛込横寺町へ移す。11月には台湾、シベリアなど海外公演巡演。
	大正 5年 1916	抱月、芸術座で全国を巡演する。8月に牛込横寺町9番地へ転居する。
	大正 6年 1917	山陰地方へも巡演して石見大田までの汽車開通で、浜田には錦が飾られなかった。 能海寛の17回忌法要が浄蓮寺で執行され、寺本婉雅氏も出席し講演する。 『能海寛遺稿』が17回忌に先立ち出版された。
	大正 7年 1918	11月5日、島村抱月、スペイン風邪に感染して芸術倶楽部において没す。
	大正 8年 1919	横谷分教場校舎改築。『島村抱月全集』出版。
	大正 9年 1920	小国尋常小学校改築。
	大正 10年 1921	4月、浄蓮寺本堂改築。波佐郵便局が波佐イ417-2へ移転する。
	大正 11年 1922	波佐村長澄川文三郎となる。
	大正 12年 1923	波佐・石田八郎氏水力自家発電を創設する。
	大正 13年 1924	4月、波佐尋常高等小学校新築移転する。波佐村長臨時代理者・佐竹英一就任。
	大正 14年 1925	波佐村長に佐竹英一氏当選する。波佐地区に電灯が初めてつく。
昭和	昭和 元年 1926	石田八郎氏、波佐・浜田間のバス運行を開始する。岡本重昌死去。
	昭和 2年 1927	
	昭和 3年 1928	波佐郵便局、波佐イ407-6へ移転する。
	昭和 4年 1929	波佐郵便局で電話通話事務開始。
	昭和 5年 1930	
	昭和 6年 1931	
	昭和 7年 1932	
	昭和 8年 1933	波佐村長、桑田準一となる。
	昭和 9年 1934	波佐村長、古和文男となる。
	昭和 10年 1935	7月、波佐青年学校認可。8月、小国村青年学校認可。
	昭和 11年 1936	波佐村長、佐竹英一となる。
	昭和 12年 1937	周布川の川真珠貝が国の天然記念物として指定される。波佐村で村有種牡牛を設ける。
	昭和 13年 1938	
	昭和 14年 1939	
	昭和 15年 1940	6月、波佐村章を決定する。
	昭和 16年 1941	波佐・浜田間を浜田交通バス運行となる。
	昭和 17年 1942	古和文男氏、県議会議員に当選する。波佐村森林組合設立する。 8月20日付、『サンデー毎日』に「雲南国境の人柱　能海寛」として掲載。 12月5日、浄蓮寺にて能海寛40回忌法会が執行され、本山から「大僧都」の辞令伝達。
	昭和 18年 1943	9月、石見地方大洪水。死者行方不明者412人。家屋全壊1,970戸。
	昭和 19年 1944	9月、浜田地方大水害。波佐村農業会設立。
	昭和 20年 1945	8月15日、終戦となる。9月、浜田地方大水害。
	昭和 21年 1946	波佐村長稲垣正一。
	昭和 22年 1947	学制改革(6.3.3制度)申請中学校開校。
	昭和 23年 1948	波佐村農業協同組合発足。
	昭和 24年 1949	浜田・波佐間の定期バス開拓者石田八郎逝去。波佐大師講発足。
	昭和 25年 1950	
	昭和 26年 1951	
	昭和 27年 1952	佐竹栄一死去。
	昭和 28年 1953	若生地区自家発電を創設。波佐村瀧平筑を広島県八幡村に編入決定。
	昭和 29年 1954	プロパンガス各家庭に普及し始める。
	昭和 30年 1955	波佐小学校校舎増築。
	昭和 31年 1956	波佐村・雲城村・今福村が合併して、金城村が発足。初代村長古和忠雄。

時代	年　代	郷 土 に 関 す る 事 象
昭和	昭和 32年 1957	若生地区に有線放送施設設置。
	昭和 33年 1958	波佐地区で赤痢発生(26人)。
	昭和 34年 1959	波佐地区有線放送開始(423戸)。新広浜バス開通。
	昭和 35年 1960	波佐中学校校舎建築寄稿。小国小学校校舎完成。
	昭和 36年 1961	波佐小学校全焼。国道笹ケ峠トンネル開通。波佐家畜管理所完成。
	昭和 37年 1962	浜田・広島間特急バス運行開始。小国トンネル開通。波佐小学校新築落成。
	昭和 38年 1963	三八豪雪。波佐地区で愛黒同友会結成。犬戻りトンネル開通。
	昭和 39年 1964	雲城・波佐館の電話・即時通話となる。中電浜田営業所波佐散宿所廃止。
	昭和 40年 1965	雲月山が県立自然公園となる。波佐診療所、役場波佐支所落成。波佐・雲城森林組合合併。
	昭和 41年 1966	波佐中学校屋内体育館・寄宿舎(三葉寮)完成。波佐一本松城開発協議会発足。
	昭和 42年 1967	三浦兼之県議会議員当選。小国小学校を廃止、波佐小学校奥に分校となる。
	昭和 43年 1968	西中国山地民具を守る会設立。波佐中学校完全給食開始。
	昭和 44年 1969	民俗資料の調査・記録・収集活動を開始する。大佐山・雲月山が西中国山地国定公園となる。
	昭和 45年 1970	民俗資料の整理・指定申請取組。
	昭和 46年 1971	実践民俗学第1弾「旧製法による紙漉き」の再現・記録作成。
		重要有形民俗文化財「波佐の山村生産用具758点」の国指定を受ける。
		金城町長より「表彰状」受与(西中国山地民具を守る会)。笠松峠林道開通。
	昭和 47年 1972	波佐文化協会設立。生涯学習のため波佐成人学級開設。
		有形民俗文化財「波佐の山村生活用具221点」の島根県指定を受ける。
		県指定天然記念物「常磐山の大杉　5株」文化財指定となる。
	昭和 48年 1973	金城町民俗資料館オープン。金城町長より「感謝状」受与(西中国山地民具を守る会)。
	昭和 49年 1974	島根県教育委員会より「表彰状」授与(西中国山地民具を守る会)。波佐地区に簡易水道完成。
		波佐公民館完成。波佐成人学級で特産教室で畑ワサビ栽培講習会を開催。
	昭和 50年 1975	実践民俗学第4弾「農具を用いた労働慣行」記録作成。冊子『民具と共に』発行。
		第1回文化財講座開催。波佐小学校プール完成。
	昭和 51年 1976	郷土芸能「大花田植」(伝統的な再現)開催。郷土の傑人顕彰板建立(波佐文化協会)。
		若生分校閉校式。
	昭和 52年 1977	実践民俗学第6弾「麻の栽培と麻蒸し作業」記録作成。
		金城町長より「感謝状」受与(西中国山地民具を守る会)。
	昭和 53年 1978	金城町歴史民俗資料館オープン。「二丁フイゴたたら」の復元展示。天然記念物「金城の巨樹」発刊。
		金城町山岳協議会を結成。大佐山登山道・組織キャンプ場設置の要望書を提出。
	昭和 54年 1979	波佐郵便局開局100年を迎える。
	昭和 55年 1980	NHK松江放送局制作「島根人物伝 能海寛」(15分番組)放映。講演「世界の屋根ラマの都を訪ねて」開催。
	昭和 56年 1981	ラマの都・チベット写真展開催(波佐文化協会)。波佐小学校屋体完成。波佐城山キャンプ場完成。
	昭和 57年 1982	波佐文化協会10周年記念講演・京都堀川病院早川一光副医院長。古和文男死去。
		能海寛顕彰碑建立(能海寛顕彰会)。くにびき国体山岳競技・成人女子踏査競技会場(波佐小)。
	昭和 58年 1983	58災豪雨。季刊「なわて」発行・全戸配布。史跡「笠松峠の畳石路」文化財指定。
		波佐一本松城学術調査開始(西中国山地民具を守る会)。史跡「金田一号墳」文化財指定。
		波佐城山キャンプ場を金城町山岳協議会が管理・運営を受託(S58～H13)
	昭和 59年 1984	新波佐八景制定(波佐文化協会)。仏像・神像調査(西中国山地民具を守る会)。
	昭和 60年 1985	長田郷遺跡調査。波佐山村広場完成。『金城町遺跡分布調査報告書Ⅰ』発行。
	昭和 61年 1986	広島大学教育学部の支援により、リーダー養成講座「波佐寺小屋セミナー」開設(波佐文化協会)。
		エクス和紙の館完成。『七渡瀬遺跡発掘調査報告書』発行。波佐町営住宅完成。
	昭和 62年 1987	波佐文化協会15周年記念「こんにちはハーネス」上映。史跡「波佐一本松城祉及び関連遺跡」指定。
		波佐成人学級特産・園芸教室受講修了者で「金城山草会」を結成、毎年「山野草展」を開催。
	昭和 63年 1988	八幡岩遺跡学術調査。書籍『求道の師 能海寛』発刊(波佐文化協会)。特別展『能海寛生誕120年』開催。
平成	平成 元年 1989	泉源探査(地下温度調査法で250地点を調査)実施。有力地点箇所6箇所確認。
		著書「チベット探検の先駆者『求道の師　能海寛』」発刊。ふるさとカルチャー「なわて塾」開設。
		民俗小論文集『石見波佐地方の紙漉習俗』発刊(和紙の里産業組合)。
	平成 2年 1990	特別展『島村抱月生誕120年』開催。波佐小学校校舎完成。
	平成 3年 1991	一般公開フォーラム「観光＆長寿福祉」を開催。第2次・ふるさとカルチャー「なわて塾」を開始。
		千年比丘一号墳学術調査実施。島村抱月生誕地顕彰碑完成。
	平成 4年 1992	書籍「島村抱月　幼年期と生い立ち」出版。みんなで守る郷土の自然「常磐のカシ林」遊歩道整備。
		七渡瀬Ⅱ遺跡学術調査実施。島村抱月文学碑完成。
	平成 5年 1993	第3次・ふるさとカルチャー「なわて塾」開催(波佐文化協会)。『金城町の巨樹50選』発行。
	平成 6年 1994	金城町教育委員会より感謝状(永年の公民館管理・運営)波佐文化協会受賞。ときわ会館完成。
	平成 7年 1995	能海寛研究会設立。機関誌『石峰』(毎年1冊発行)。波佐郵便局新築移転、波佐イ423-2。
	平成 8年 1996	「よごろの晩に芝居を観る会」開催(波佐文化協会)。波佐農村公園完成。
	平成 9年 1997	亀遊講演祭り。波佐の大花田植実施。
	平成 10年 1998	書籍「金城の風土記」出版(波佐文化協会)。特別展『チベット壮途100年・生誕130年』開催。
	平成 11年 1999	能海寛訪中100年記念「DENSEN胡弓演奏の夕べ」開催(波佐文化協会)。能海寛立像彫塑除幕式。

時代	年　代	郷 土 に 関 す る 事 象
平成	平成 11年 1999	波佐さんあいホーム完成。(以後、7年間使用後閉鎖)。
	平成 12年 2000	財団法人サントリー文化財団理事長より「地域文化賞」授与(波佐文化協会)。古和忠雄死去。
	平成 13年 2001	著書『金城の風土記』発行。大歳神社に熊が出没のため城山キャンプ場立ち入り禁止となる。
	平成 14年 2002	書籍「まんが西蔵探検家『能海寛』」出版(波佐文化協会)。笠松峠の畳石路埋没出現作業。
	平成 15年 2003	100Kmウルトラマラソン試走会実施・コース設計・ロード許可申請=加計警察署、(波佐文化協会)。
	平成 16年 2004	第1回100Kmトリイル遠足開催(エイドステーション・実行委員会)全国28府県から参加。
	平成 17年 2005	波佐八景など能海寛詠の歌碑10基建立(波佐文化協会)。冊子『歌碑めぐりの栞』発行。 第2回100Kmトレイル遠足開催(エイドステーション・実行委員会)。 民具カード『民具100選』作成支援(金城民俗資料館の資料提供)。 2つの金城資料館を郭とした地域全体を博物館に見立てる「地域まるごと博物館」がスタート。 波佐温泉ほたる湯館営業開始。
	平成 18年 2006	能海寛歌碑めぐりウォークラリー実施(波佐文化協会)。
	平成 19年 2007	金城の三偉人・第1弾「能海寛歌碑めぐりウォーク」(金城公民館連合会主催)。 著書『民具を用いた労働慣行』発行(西中国山地民具を守る会)。
	平成 20年 2008	「能海寛関係歴史資料」市指定文化財となる。企画展「浜田市文化財指定記念『能海寛』」開催。 波佐自治会へ波佐城山キャンプ場廃止方針が提示されたため金城町山岳協議会解散する。
	平成 21年 2009	ほたる湯館グラウンド・ゴルフ場建設・オープン。G・ゴルフ大会主催。
	平成 22年 2010	実践民俗学第10弾「古代たたら製鉄法」再現実験。企画展『石見地方のたたら製鉄と流通』 『能海寛著作集』全18冊発刊(能海寛研究会)。 著書「チベット巡礼探検家『求道の師　能海寛』発行(USS出版)。 著書『文豪・島村抱月』発行(波佐文化協会)。
	平成 23年 2011	HP創設、https://www.hazaway.com　(波佐文化協会)。
	平成 24年 2012	「たたら古文書」の調査開始。6年間、閉鎖中のディサービスセンターの地元での利活用(福祉を含めた高齢者福祉授産センター)へ検討方、波佐塚本自治会長へ申し出る(3団体)。
	平成 25年 2013	冊子『実践民俗学提唱45年の歩み』発刊(西中国山地民具を守る会)。 書籍『地下農民の生活史』発行(波佐文化協会)。金城民俗資料館会館40周年記念「市民感謝デー」 23年間にわたり開催した「金城山野草展」を閉じ、「金城山草会の歩み」を発刊して、解散する。 12月、「長寿福祉村構想」を金城支所でプレゼン(ディサービスセンター地元利活用・3団体)。 「チベットセミナー」を開講(毎年1回開催)。
	平成 26年 2014	島根県知事より「県民いきいき活動奨励賞」受賞(西中国山地民具を守る会)。 ディサービスセンターは、将来福祉で使うかもしれないので地元活用はできない旨回答(金城支所)。 地域研究センター協議会設立(波佐文化協会・能海寛研究会・西中国山地民具を守る会・GG場)。 インターネットで、「波佐ネット通信」で地域を発信。
	平成 27年 2015	みんなで守る郷土の自然「常磐のカシ林」看板・樹木標識・巡回標識リニューアル(波佐文化協会)。 島根県知事より「県民いきいき活動奨励賞」受賞(能海寛研究会)。 「カルチャーミュージアム(学べる博物館)」探検隊リレー講座(5回コース)を開催。
	平成 28年 2016	冊子『常磐山のカシ林ガイドブック』発行、自然観察会開催(波佐文化協会) 「カルチャーミュージアム(学べる博物館)」探検隊リレー講座(5回コース)を開催。
	平成 29年 2017	著書『波佐地方の「たたら製鉄」と地域経済』発行(波佐文化協会)。

《作成者》 隅 田 正 三

お く が き

◇ この『地下農民の生活史』は、波佐史学研究会を立ち上げてから45年間の地方史研究の中間発表として、平成 25 年に取りまとめたもので、今回、郷土史年表部分の昭和 21 年以降を補足して PDF 版『地下農民の生活史』として、公開するものです。大方の皆様方のご叱正をいただきたいと存じます。

◇ 波佐倶楽部において、地方史の先行研究を成された、能海寛氏、小林久太郎氏などが中心となり中世から江戸時代までの村内に眠っていた古文書を調査し、そして明治30年までの歴史的事象を『波佐史私考』(中世史)にまとめられ後世の研究者へ引き継がれたものを活用させていただきました。

◇ そして、新しい分野の考古学・発掘調査・民俗学・たたら研究などを駆使して、総合的に書き上げたものです。地域の歴史学習(読み物)としてご活用いただければ幸いであります。

【参考文献】

『日本全史』(講談社刊)、『波佐』(金城町教育委員会刊)、『遺跡分布調査報告書Ⅰ』(金城町教育委員会刊)、『遺跡分布調査報告書』(金城町教育委員会刊)、『波佐史私考』(能海寛著)、『金城町誌』(金城町)、『文豪・島村抱月』(波佐文化協会刊)、『求道の師・能海寛』(USS出版刊)、『能海寛著作集』(USS出版刊)、『考古学辞典』(東京創元社刊)、『日本土器事典』(雄山閣刊)、『石見波佐地方の紙漉き習俗』(和紙の里産業組合刊)、『金城の風土記』(波佐文化協会刊)、『西石見の民俗』(吉川廣文館刊)、『読める年表』(自由国民社刊)、『たたら研究』(示人社刊)、『島根県生産遺跡分布調査報告書』(島根県教育委員会刊)、『金城町の文化財(第1集　町内の古墳)』(金城町教育委員会刊)、『七渡瀬遺跡発掘調査報告書』(金城町教育委員会刊)、『石見の城館跡』(島根県教育委員会刊)、『藩史大辞典(中国・四国編)』(雄山閣刊)、『日本史広辞典』(山川出版社刊)、『石見年表』(藤井宗雄著)、『島根県の地名』(平凡社刊)、『図録　石器の基礎知識』(柏書房刊)、『日本城郭大系11』(新人物往来社刊)、『日本荘園地図』(内村理三著)、『中世荘園史研究の歩み』(新人物往来社刊)、『復刻　日本科学古典善書5』(朝日新聞社刊)、『歴史の道調査報告書(第9集)』(島根県教育委員会刊)、『日本の城の基礎知識』(雄山閣刊)、『たたら製鉄と近代の幕開け』(島根県立古代出雲歴史博物館刊)、『鑪日記』(桂迫鑪)、『吉川文書』、『佐竹家文書』、『古和家文書』、『栗ノ木田文書』、『桑原家文書』、『関ケ原文書』、『波佐萬手鑑』、『那賀郡波佐村御縄水帳』、『菅廼舎文書』、『西谷村田方名寄』、『波佐村庄屋作高並買添田地改』、『石州那賀郡波佐村検地帳』、『小国村年々新畠水帳』、『田畑屋敷改正地引帳総寄』、『耕地宅地々価調帳』ほか鉄山関係文書多数。

PDF 版『地下農民の生活史』

著　者　隅　田　正　三
発行日　2017 年 4 月 28 日
発行者　波 佐 文 化 協 会
島根県浜田市金城町波佐イ 394
TEL／FAX　0855-44-0010

石峰と抱月のふるさと
地域丸ごと博物館（ミュージアム）
浜田市金城町

チベット巡礼探検家　能海寛

文豪　島村抱月

ただ観るだけの観光に終らず、学習が出来る「地域丸ごと博物館」をめざしています。

歴史館で古代史・中世史など**歴史学習**ができます。

二つの資料館で**考古学・民俗学**の学習ができます。

国定公園大佐山・大漕山登山、波佐川での自然観察学習ができます。

歴史館で「**たたら学習**」ができます。

チベット探検家・能海寛、文豪・島村抱月を通して**知的国際交流**ができます。

能海寛歌碑巡り**ウォーク**、笠松峠の畳石路ウォークが楽しめます。

波佐一本松城・水見城で中世の**山岳城郭**が学習できます。

常磐のカシ林遊歩道で**自然観察会**ができます。

【観光案内モデルコース】 ①能海寛歌碑めぐりコースを訪ねる旅　②島村抱月文学散歩コースを訪ねる旅　③畳石路と山岳城郭を訪ねる旅　④たたら関係資料とたたら遺跡を訪ねる旅　⑤グラウンド・ゴルフ/食散策の旅　⑥自然散策／文化財探訪／巨樹・巨木めぐりの旅